

目 次

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	p. 2
ア. 西九州大学大学院の現状把握・分析	
イ. 地域・社会的動向等の現状把握	
ウ. 保健医療学専攻設置の趣旨目的、教育内容、定員設定等	
エ. 学生確保の見通し	
A. 学生確保の見通しと調査結果	
B. 新設専攻の分野の動向	
C. 競合校の状況	
D. 既設学部の学生確保の状況	
オ. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	
(2) 人材需要の動向等社会の要請	p. 20
① 人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	p. 20
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである	
ことの客観的な根拠	p. 20
1) 大学・専門職大学の教員	
2) 保健行政機関における高度な保健医療専門職	
3) 医療・福祉機関において地域包括ケアなどをけん引する高度な保健医療専門職	

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

生活支援科学研究科保健医療学専攻博士後期課程における学生確保の見通し及び申請者としての取組状況は以下の通りである。

ア. 西九州大学大学院の現状把握・分析

西九州大学は、佐賀県内唯一の私立4年制大学として、建学の精神である「健康と福祉の探究」を目指して教育研究を深化・発展させるため、社会福祉、精神保健福祉、介護福祉、臨床心理、教育・保育、管理栄養、理学療法、作業療法、看護の各分野において求められている専門職業人の養成に努めてきた。近年の我が国においては、格差、排除、貧困、虐待、不登校、障害、体力の低下、傷病の増加など多様な生活・健康・教育における様々な歪みが生じており、これらの様々な生活課題に対応するため、本学は高度専門職業人の育成のために大学院の整備を行ってきた。その整備の一部として、平成26年に専攻より分離させたりハビリテーション学専攻修士課程や令和4年度に開設した看護学専攻修士課程がある。リハビリテーション学専攻修士課程では障害を持つ人の社会参加や地域生活を支援するための身体・認知・精神面に対するリハビリテーション分野における高度専門職人の育成を実施してきた。看護学専攻修士課程では地域社会で生活する人々の健康問題を支援する専門性の高い看護実践能力をもった指導的看護実践者の育成を行っている。

しかしながら上記に述べた生活課題は、近年ますます多様化、複合化、高度化し、従来の福祉・栄養・健康・医療・教育などの各分野での個別的対処では解決困難になってきた。また、多様な科学領域の知識や技術、大量データを駆使して、既存学問領域を横断した統合的アプローチができる研究者が求められるようになったことから、これに応えるために高度で専門的な

能力を有する人材の育成が必要であると考える。

本研究科における平成 30 年度から令和 4 年度の過去 5 年定員充足率は 9 割を超えている。専攻別に見た場合、栄養学専攻（博士前期課程）ならびに子ども学専攻が 5 割未満と未充足である。しかし、栄養学専攻は博士後期課程を令和 4 年度に新設し定員充足しており、今後の充足に期待ができる。一方、子ども学専攻は教員採用試験合格者の増加傾向が大学院進学者減少の一要因であることが予想されるため、現学部生への当該専攻の魅力発信と学部卒業生へのアプローチ強化が必要である。なお、臨床心理学専攻とリハビリテーション学専攻は過去 5 年間定員充足を達成しており、令和 4 年度の定員充足率は臨床心理学専攻では 2.0 倍、リハビリテーション学専攻は 1.33 倍であり、過去 5 年をみても安定して学生を確保できている。また、心理カウンセラーや専門職業大学教員確保等の社会的ニーズの増加傾向もあり既存専攻とともに安定的な学生確保が期待できる。

イ．地域・社会的動向等の現状把握

健康寿命延伸のための脳血管疾患・転倒骨折・認知症における一次から三次予防は社会保障を継続する上で国家の喫緊の課題である。身体機能障害、認知・精神機能障害、生活機能障害の分野における教育研究活動は極めて重要であり、これに携わる人材の育成は適切になされなければならない。しかし、臨床研究の実績がある理学療法士、作業療法士、看護師・保健師・助産師の資格取得者で資質の高い教員は不足している。大学院設置基準では、教授の資格として博士の学位を有することが定められているが、これに該当する人材養成が十分ではないこと

が一因と考えられる。また、厚生労働省では、診療報酬・介護報酬改定でエビデンスのない理学療法・作業療法・看護に関して、それらの報酬としては認めがたいという方向性を打ち出している。彼らが健康づくり、疾病予防・介入・保健医療を実践する上で理学療法・作業療法・看護のエビデンスを構築しガイドラインやマニュアルづくりが喫緊の課題であるが、その課題に対応するには医療データの分析処理や健康政策の企画・立案する能力が必要である。本学のリハビリテーション学修士課程においては、主に臨床の病院勤務の理学療法士および作業療法士が就学しており、高度職業人としての人材、及び知識基盤社会を支える人材を輩出してきている。今後、看護学専攻修士課程においても同様に人材育成に取り組んでいく。しかし、より高度な知識と現場対応能力が求められている昨今、博士後期課程の設置が必要であると判断した。

なお、佐賀県内において、リハビリテーション学、看護学といった保健医療分野を有する唯一の4年制大学である本学が、保健医療分野における高度な人材を育成する役割を中心的に担うことが期待されている。地域に貢献できる人材を育成するための教育体制の整備、研究者の研究能力の向上や研究の発展、研究体制の整備のためにも大学院の整備は必要と考える。本学が位置する佐賀県民の健康増進上の大きな課題となっている糖尿病をはじめとした生活習慣の改善において、自治体や地域と連携した仕組みづくりに大学院の整備は必要不可欠である。

ウ. 保健医療学専攻設置の趣旨目的、教育内容、定員設定等

1) 保健医療学専攻がどのように貢献できるか

今回、設置を計画している保健医療学専攻博士後期課は、リハビリテーション学と看護学を基礎とする。昨今の多様化、複合化、高度化する生活課題は、従来の福祉・栄養・健康・医療・教育などの各分野での個別的対処では解決困難であり、多様な科学領域の知識や技術、既存学問領域を横断した統合的アプローチが必要である。複雑化・高度化する現代の保健医療学的課題に現場にて取り組み、これを解決する課題解決能力およびその成果を国際誌に発表する情報発信能力を備えた研究者、とくに理学療法士、作業療法士、看護職（看護師・保健師・助産師）が働く現場におけるリーダーとして職場の課題解決を担う高度で専門的な能力を有する人材を育成する目的で申請を行う。

また、理学療法士、作業療法士、看護職（看護師・保健師・助産師）ともに有資格者の増加に伴う、職能水準の低下が懸念されており、質の担保が重要な課題となっている。卒後の生涯教育プログラムの取得率はどれも2%程度と低い。そこで、保健医療学専攻博士後期課程においては、高度専門職としてのコースワークの科目を一部設置し、今後、理学療法士、作業療法士、看護職（看護師・保健師・助産師）と連携し高度専門職業人生涯教育プログラムを推進する保健医療学領域で指導的役割を果たす人材の育成することが期待できる。

2) 定員設定の理由

本学の位置する九州地方において、リハビリテーション分野において明確に保健医療学研究者の育成を目指して大学院博士課程を擁する大学は国際医療福祉大学と長崎大学、鹿児島大学の3校のみで、合計の入学定員は20名である。

また九州地方における看護職としての学位、博士（看護学）、博士（保健学）が取得できる

大学は、9校であり（35名）、佐賀県と長崎県には1校もない（資料1）。

国立大学は、九州大学大学院（10名）、熊本大学大学院（6名）、鹿児島大学大学院（6名）、琉球大学大学院（3名）すべて保健学専攻で設置されており、学位は、博士（保健学）または博士（看護学）のいずれかが取得できる。どれだけの人が、博士（看護学）を取得しているのかは不明である。公立大学は、大分県立看護科学大学大学院看護学専攻（2名）、宮崎県立看護大学大学院看護学専攻（2名）、沖縄県立看護大学大学院保健看護学専攻（2名）、名桜大学大学院看護学専攻（2名）、私立大学では、日本赤十字九州国際看護大学大学院共同看護学専攻（2名）であり、公立大学及び私立大学で取得できる学位は、すべて博士（看護学）である。看護系大学に勤務する教員で、看護学の学位取得を目指したい人はいる。しかし近隣ではないことから諦めたり、他の学問で博士の学位を取得する人は多い。本大学で博士（看護学）が取得できることになれば学生確保は十分にできると考える。（資料2）

以降のアンケートの集計結果にて詳細に述べている通り大学院博士後期課程への進学希望者は一定数以上存在することは明白であるが、希望者の多くは社会人であり就業者である。本専攻では社会人においても修学できる環境を計画しているが、職場の理解を得ることや研究との両立は容易ではない。そのため、入学希望者は実際の希望者より少ないと考えられ、2名の定員設定が妥当と判断した。

3) 今、保健医療学専攻の設置が必要な理由

本学は「地域宣言」をした地域志向の大学である。地域が直面している健康課題に県や

市町などの行政、または医療機関や企業と連携し、佐賀県民の健康増進に貢献すべく、今後はより研究と協力体制を整えていく必要がある。そのひとつとして、日進月歩の保健医療分野の研究分野に貢献できる人材や、住民が抱える健康問題の解決に向けて健康政策を企画・立案できるリーダー的人材を育成することは必要不可欠である。また、知識基盤社会を支える人材としてのブラッシュアップの場としても博士後期課程の設置は大切な役割を果たすことができる。佐賀県の医療計画では、二次医療圏（救急医療を含む一般的な入院治療が完結するように設定した区域）を基本とし、施策体系の基本構想の地域包括ケアシステムの構築、医療・介護等連携・ネットワークの構築が計画され実行されつつある。この施策体系こそ、本専攻が目指す保健医療専門職の専門かつ総合な教育と研究・多職種連携の教育が最も成果を示すことができる内容である。本専攻では、多職種連携の基本理念である多領域の専門性を学び、連携の方法を実践的に学修できる環境にある。現在の社会課題を改善し、求められる多職種連携の構築・実践ができる高度な保健医療実践者を養成することは急務と考える。また、保健医療分野の人材を育成するための教育研究分野の人材育成も急務であり、九州圏内に設置されるという視点から鑑みても本学の保健医療分野の博士後期課程の設置は保健医療分野に大きな利益と考える。

4) 保健医療学専攻の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

学生納付金を設定する際には、できる限り学生負担の軽減をしつつ、教育研究の充実と研究条件および環境を維持・継続するために必要な金額を設定している。

保健医療学専攻博士後期課程は、「保健と医療と福祉」の分野における高度で専門的な職業

に従事するために必要となる、自ら学び、自ら研究し、自ら課題を解決する力を有する、人材の育成を目的としている。そのために、医学、保健学、基礎リハビリテーション学、実践リハビリテーション学、看護学の分野において、自ら課題を見出して自立的に解決のための研究に取り組める研究者としての基礎能力の修得を目指す。

なお、学生納付金を設定する上では、近隣の保健医療系の大学院を参考にした。近隣県においてリハビリテーション学の研究で博士の学位を取得できる大学は2校のみであるが、私立の国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科博士後期課程の令和4年度学生納付金は初年次1,300,000円、2年次以降は1,000,000円であった。公立の長崎大学大学院研医歯薬学総合研究科の令和4年度学生納付金は初年次817,800円で、2年次以降が535,800円であった。九州内の看護系大学院博士課程がある私立大学は、日本赤十字九州国際看護大学1校である。初年度納付金は1,500,000円である。

上記のような九州地域における学生納付金の状況を踏まえ、本学保健医療学専攻博士後期課程の初年度納付金は810,000円、2年次以降は610,000円とする。保健医療学研究を志す者が経済的負担から大学院進学を躊躇することが無いように、国公立大学程度の学費にすることで地域において保健医療学系博士課程への進学を希望する者を支援することとした。

エ. 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

生活支援科学研究科保健医療学専攻博士後期課程の定員は2名である。本専攻では次のような入学者を想定している。特に、社会的需要が明確である3～6で示す社会人の入学者が比較的多数を占めることになると見込んでいる。

1. 本学リハビリテーション学専攻修士課程、および看護学専攻修士課程を修了する院生
2. 他大学のリハビリテーション学系、および看護学系の大学院を修了する院生
3. 大学・専門職大学、短期大学、専門学校等に在籍する教員
4. 医療・福祉・介護施設の現任職員
5. 官公庁等で保健行政に従事する現任職員
6. リハビリテーション・介護機器等の開発、および看護学の研究に携わる専門職
および研究職

保健医療学専攻は、リハビリテーション学および看護学を基盤としつつ、総合的なアプローチにより、人々の地域生活を支援し、貢献できる実践的研究者の養成を目指している。この教育理念や目標に基づいて、修士課程修了者及び大学・専門職大学、短期大学、専門学校など高等教育機関の教員を中心にしつつも、高度な学術研究、実践的な臨床研究に取り組みたいと願う地域医療の従事者に対して広く門戸を開くものである。定員2名のうち、大学院修士課程修了後に直接進学する大学院生を1名程度、社会人1～2名、合計2名程度の入学を見込んでいる。現在の修士課程在籍者数は、リハビリテーション学専攻では、1年生4名（学部からの進学者1名、社会人学生3名）、2年生3名（社会人学生）であり、看護学専攻は、令和4年開設したばかりであるが1年生3名

(社会人学生)である。また、博士課程進学希望者は社会人が多いと推測する。このような人たちに対して日本看護協会より看護系大学院修士または博士課程で保健看護を専攻する人を対象とした奨学金(学費および生計費)の貸与、年額180万円以内、無利息で一括貸与が行われていることからそれを利用して進学できるメリットがある。博士後期課程を設置した場合には、定員2名の充足は十分に見込まれると考える。

博士号取得に関するアンケート調査をリハビリテーション分野、並びに看護学分野で実施した。

リハビリテーション分野のアンケート調査は、社会人についてはリハビリテーション学部の卒業生や臨床実習指導者のうち佐賀県内やその近隣の保健・医療・福祉機関や理学療法士・作業療法士養成校に従事する者、リハビリテーション学専攻(修士課程)の修了生を対象に行った。また、リハビリテーション学部4年生、リハビリテーション学専攻(修士課程)の在学者にも実施した(資料3)。方法は、Google formによるweb調査である。社会人とリハビリテーション学専攻(修士課程)の修了生にはメールにて案内を行った。修士課程学生と学部4年生に対してもメールにて趣旨を説明し、協力を求めた。令和4年1月25~29日の間に回答をお願いし、回答が得られたのは、社会人28名、リハビリテーション学専攻(修士課程)の修了生32名、大学院生5名、学部生37名、リハビリテーション学専攻(修士課程)の大学生5名であった。

社会人の結果を見ると、回答者の内訳は、現在、医療施設・福祉施設に勤務する者が27名(96.4%)で最も多かった(資料4:図1)。回答者の学問領域も、リハビリテーショ

ン学系が27名(96.4%)と最も多く、リハビリテーション専門職の現職が多いことが推察された(資料4:図2)。興味ある学問領域においても、リハビリテーション学系15名(53.6%)が最も多かった(資料4:図3)。仕事上、博士号の学位取得の必要性を感じている者が7名(25%)、どちらかという必要だと思っている者が9名(32.1%)で、合計16名(57.1%)が必要と感じていた(資料4:図4)。そのために現実的に入学者として見込めるのではないかと考えた。これから博士号取得について希望している者が4名(14.3%)、博士号取得について考えてみたい者も12名(42.9%)おり、開設後からの入学に期待できる者と考えられる(資料4:図5)。博士号取得に際し、気になっているのは、勉強したい領域14名(26.4%)、経費9名(17%)、通学距離9名(17%)、仕事との両立13名(24.5%)、家庭との両立4名(7.5%)おり、学問領域以外に仕事・家庭との両立を心配しており、時間の工面からいっても通学距離が近いことは魅力的な要素であるとする(資料4:図6)。佐賀県唯一のリハビリテーション学系博士後期課程の需要は大きいことが推察される。アンケート回答者以外にも周囲に、博士号取得希望者がいる8名(28.6%)、希望する人がいるかもしれない10名(35.7%)をあわせて、18名程度の方が博士号取得を考えている可能性があり、アンケート回答者以外にも希望者が想定される(資料4:図7)。実際に本学に博士後期課程が設置された場合、進学を検討したい者が12名(42.9%)、現時点では、詳細な設置概要が不明なため分からないと答えている者が12名(42.9%)であり、定員2名の3学年は問題なく確保できると考えられる(資料4:図8)。

学部4年生の結果を見ると、回答者の内訳は本学リハビリテーション学科4年生 37名(100%)であった。興味ある学問領域においても、リハビリテーション学系が30名(81.1%)で最も多かった(資料4:図9)。博士号の取得に興味があるのは10名(27%)、少し興味がある10名(27%)で(資料4:図10)。博士号取得について希望している者が5名(13.5%)、これから博士号取得について考えてみたい者も12名(32.4%)あわせて17名が開設後からの入学に期待できる者と考えられる(資料4:図11)。

回答時期が理学療法士・作業療法士国家試験の直前であったことから、博士号取得については漠然としていることが伺えた。学部4年生は、博士号取得において気になっていることとして、学問領域、就学における経費と仕事との両立についてあげていた(資料4:図12)。アンケート回答者以外にも周囲に、博士号取得希望者がいる10名(27%)、希望している人がいるかもしれない12名(32.4%)をあわせて、22名程度の方が博士号取得を考えている可能性があり、アンケート結果以外にも希望者が想定される(資料4:図13)。実際に本学に博士後期課程が設置された場合、進学先として検討したいが13名(35.1%)であった(資料4:図14)。調査時期が理学療法士・作業療法士国家試験の直前で将来展望を描きにくかったことと現時点では、設置概要が不明なため現実的な進路として考えることが難しいのであろうと推察され、設置の際に広報すれば入学を希望する可能性は高い。

さらに、修士課程修了の者に対してもアンケート調査を行った(資料3)。回答者の内訳は、現在、保健・医療施設・福祉施設に勤務する者23名(71.9%)と最も多く、高等教

育機関（大学等）に勤務している者が7名(21.9%)、高等教育機関（大学・大学院以外）が2名(6.3%)であった（資料4：図15）。回答者の学問領域は、リハビリテーション学系が31名(96.9%)で最も多かった（資料4：図16）。興味ある学問領域においては、リハビリテーション学系が25名(78.1%)で最も多かった（資料4：図17）。大学院博士課程を修了している者が7名(21.9%)、現在大学院博士課程に在籍している者が10名(31.3%)、大学院修士課程に在籍していないが、社会人で2年以上研究に従事している者が2名(6.3%)で、修士課程修了後も19名(59.3%)が博士課程に進学をしたり、研究を継続していた（資料4：図18）。そのため、修士課程修了後も博士課程に進学する者が多いと推察され、定員2名に対して十分な社会的需要がある者と考えられる。学位取得の必要性を感じている者が15名(46.9%)、どちらかという必要だと思っている者が6名(18.8%)で、合計21名(65.7%)が必要と感じていた（資料4：図19）。博士号取得について希望している者が5名(15.6%)、これから博士号取得について考えてみたい者も7名(21.9%)あわせて12名が開設後からの入学に期待できる者と考えられる（資料4：図20）。博士号取得に際し、気になっているのは、博士号取得に際し、気になっているのは、勉強したい領域16名(25.4%)、経費12名(19%)、通学距離7名(11.1%)、仕事との両立13名(20.6%)、家庭との両立8名(12.7%)おり、学問領域以外に仕事・家庭との両立を心配しており、時間の工面からいっても通学距離が近いことさらに学費が安いことは魅力的な要素であると考え（資料4：図21）。周囲に、博士号取得希望者がいる11名(34.4%)、希望している人がいるかもしれない8名(25%)をあわせて、19名程

度の者が博士号取得を希望する可能性があり、アンケート回答者以外にも潜在的希望者の存在が推測される（資料 4：図 22）。実際に本学に博士後期課程が設置された場合に、進学を希望している者が 10 名(31.3%)おり、現時点では、定員 2 名に対して十分な社会的需要がある者と考えられる（資料 4：図 23）。

さらに人数は少ないが修士課程在学の者 5 名に対してもアンケート調査を行った（資料 3）。回答者の学問領域は、リハビリテーション学系が 5 名 (100%)であった（資料 4：図 24）。興味ある学問領域においては、リハビリテーション学系 5 名 (100%)であった（資料 4：図 25）。博士号取得について希望している者が 2 名(40%)、これから博士号取得について考えてみたい者も 3 名(60%)あわせて 5 名が開設後からの入学に期待できる者と考えられる（資料 4：図 26）。博士号取得に際し、気になっているのは、博士号取得に際し、気になっているのは、勉強したい領域 4 名(28.6%)、経費 2 名(14.3%)、通学距離 1 名 (7.1%)、仕事との両立 4 名 (28.6%)、家庭との両立 2 名 (14.3%)おり、学問領域以外に仕事・家庭との両立を心配しており、時間の工面からいっても通学距離が近いことは魅力的な要素であるとする（資料 4：図 27）。周囲に博士号取得希望者がいる 1 名 (20%)、希望しているがいるかもしれない 2 名 (40%)をあわせて、3 名程度の者が博士号取得を希望する可能性があり、アンケート回答者以外にも潜在的希望者の存在が推測される（資料 4：図 28）。実際に本学に博士後期課程が設置された場合に、進学を希望している者が 4 名(80%)おり、現時点では、定員 2 名に対して十分な社会的需要がある者と考えられる（資料 4：図 29）。

看護学分野においては、修士課程開設時の大学院設置（修士課程）に関するニーズ調査を佐賀県内の主な実習病院の看護職を対象として2021年1月に実施した結果を述べる。回答者1714名の中で進学したい、またいずれ進学したいと答えた人は、111名（6.5%）、修了済み22名（1.3%）、いいえと答えた人1581名（92.2%）であった。博士課程を含み進学希望理由は、155名の中で、現在の看護職としての能力を向上させたい88名（56.8%）、さらに勉強し博士を目指したい5名（3.2%）、教育力・研究力を高めたい41名（26.5%）、大学教員を目指したい、また管理職を目指したい14名（9.0%）、その他7名（4.5%）であった。また、学びたい内容では自分の興味ある看護分野についてさらに深めたいという回答が、回答者414名のうち185名（44.7%）であった。いずれも学習意欲が高く、常に責任感と向上心を持ち仕事に取り組む姿勢が窺える。博士を目指したいと回答する者も5名存在した。しかしながら就業と研究の両立は容易ではなく、職場の理解を得ることも難しい。潜在的な進学希望者はより多く存在すると推察されるが、実際に進学できる者は少ないと考えられる。以上のことから、保健医療学専攻としての定員は合計2名が妥当であり、この定員確保も十分に可能であると判断する（資料5）。

B. 保健医療学分野の動向と社会人入学の確保、並びに地域的動向

前述したアンケート結果からも、特に大学教員からの博士号取得の需要が高く、本学に博士後期課程が設置された場合には、進学先として選択する可能性が高いものと予想

できる。また、佐賀県内および隣接県（福岡県、長崎県、熊本県）にリハビリテーション学系大学院博士後期課程は2校しか存在しないことから、佐賀県に加えて隣接三県の社会人を学生として受け入れることができる立地条件であることも学生確保に有利である。隣接県域内（佐賀県、福岡県、長崎県、熊本県）におけるリハビリテーション学系修士課程の入学定員は27名（佐賀県4名、福岡県8名、長崎県10名、熊本県5名）であり、修士の学位を取得して社会人となっている者は多い。また、リハビリテーション学系大学（理学療法士・作業療法士養成校）の卒業者は毎年約776名（入学定員ベースで、佐賀県80名、福岡県520名、長崎県36名、熊本県140名）に昇り、多くの社会人を輩出していることからリハビリテーション学系既卒者の裾野は広がっている。

C. 競合校の状況

リハビリテーション分野における大学院博士後期課程を有する大学は隣接県内に国際医療福祉大学福岡キャンパス（福岡県、入学定員5名）と長崎大学（長崎県、入学定員10名）の2大学のみで入学定員は15名にしか過ぎず、本専攻の定員2名を加えても17名である（資料6）。九州圏内の博士後期課程の入学定員は、修士課程の入学定員27名に対して決して多くはなく、本専攻の学生確保については問題ない社会状況であると考えられる。また、看護分野においては、九州地方における看護職としての学位、博士（看護学）、博士（保健学）が取得できる大学は、9校であり（35名）、佐賀県と長崎県には1校もない（資料1）。

近接の保健医療系の専攻として長崎大学医師薬学総合研究科医療科学専攻博士後期課程（学位：医学）があるが、入学定員 60 名に対して 2022 年の入学者は 80 名、2021 年は 71 名である。保健医療分野を希望する学生は多いと考えられる。

D. 既設学部の学生確保の状況

本学のリハビリテーション学部リハビリテーション学科（理学療法学専攻：定員 40 名、作業療法学専攻：定員 40 名）は、2007 年に開設し本年で 16 年目を迎え、これまで 800 名以上の理学療法士、作業療法士を輩出した。本学の作業療法学専攻における収容定員充足率は、平成 30 年度は 0.92、令和元年度は 0.83 と年々低下しており、令和 4 年度は 0.56 に落ち込んだ。この現象は本学だけではなく、全国 200 校の作業療法士養成校も同様である。要因として考えられることは、「作業療法（士）」という名称からくる職務内容の誤解である。すなわち、受験生はリハビリテーションと言えは理学療法士を想像し、作業療法士は「作業をする人」たちと思い込んでいる場合が多い。本学のリハビリテーション学部の受験状況からもその様子は窺える。本学の理学療法学専攻の令和 4 年度の収容定員充足率は 1.02 である。入学定員充足率から見ると、令和元年度のみ 0.55 と低かったが、例年の入学定員充足率は全て 1.00 を超えており入学希望者は多い。作業療法と理学療法では名称による印象の差が大きいことが課題である。

本学の健康福祉学部社会福祉学科においては平成 30 年～令和 4 年度の収容定員充足

率は0.6前後を推移しており、令和4年度は0.50まで落ち込み、その対策に注力している状況である。志願者減少の背景として、近年の福祉現場に対する偏った報道によって福祉の仕事は「3K（きつい、汚い、危険）」というイメージが定着し、若者の福祉離れが進んだことがあげられる。社会福祉系学科の志願者減少は全国の大学で進み、募集定員の削減あるいは募集停止に踏み切った大学も多い。とくに、本学の位置する九州圏では、社会福祉士養成校協会に加盟している養成校が計32校もあり、少ない志願者を大学間で奪い合う状況となっている。

看護学部は、平成30年に開学して現在5年目である。定員90名に対して入学定員充足率は、平成30年1.04、平成31年1.07、令和2年0.86%、令和3年1.16、令和4年1.20であり、令和4年度の取容定員充足率は1.06と順調に定員確保はできている。学生確保に向けては、在校生を入れたオ-ブンキャンパス、教員全員で実施している高校訪問、特に佐賀県・長崎県内の高校から依頼があれば進路ガイダンスに訪問している。また広報活動として、看護学部のホームページのブログに掲載するなど積極的な対応を実施している。

オ. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

保健医療学専攻の設置においては学内関係部署との密接な連携のもとに、大学院進学相談会をはじめとした組織的な広報活動に取り組む。また、学生募集とともに社会的認知を向上させるためにも、具体的な学びと将来像の可能性についての広報活動を行う。具体的には、パンフレットを作成し、関連の学会や人的ネットワークを活用して、生活支援科学研究科保

健医療学専攻の教育理念や人材育成の目的等について、積極的に進学を検討する可能性の高い近隣の大学教員、医療機関勤務の理学療法士・作業療法士・看護師に訴求する。あわせて、大学案内パンフレットや大学の入試サイトへの掲載、ホームページのさらなる充実を図ることで学生確保につなげる。

看護学専攻は、令和4年からスタートをした。今後に向けた定員確保としては、上記に述べた内容に加えて、今年度実施し、大学院受験希望者が増えたので、今後も引き続き公開講座で教育課程の紹介、また学生達が何をどのような学びをしているのか等の紹介を行う。またチラシや大学案内パンフレットを看護協会で開催される看護専門学校の教員達の集まりや看護学部の学生が実習している病院に配布し大学院の紹介を積極的に実施していく。

令和4年3月に看護学部1期生が卒業した。卒業生から臨床経験を積んだら大学院に進学したいという声が聞こえている。今後卒業生と連携を取りながら、学生確保を行う。卒業生達が臨床経験を積み、大学院進学を目指すようになると着実な学生確保が可能となる。

既設のリハビリテーション学科作業療法学専攻における学生確保の施策として、作業療法士の役割について理解してもらうため、本学で実施しているオープンキャンパスや高校訪問にて受験生への正しい概念と将来性をアピールする。また、本学が主催、または共催している地域イベント等でも積極的に本学のリハビリテーション学科を紹介している。

既設学部の社会福祉学科では定員確保に向けた対策として以下を講じている。(1) カリキュラムを改革し、「子ども・教育系」「医療・精神保健系」「生活支援系」「地域支援系」として履修モデルを提示し、大学での学び卒業後の職業や「しごと」との関連性を強める内容と

した。また、新たに「園芸療法士」の養成も開始した。次に(2) 演習や臨床場面を取り入れたプログラムを導入したオープンキャンパスやリニューアルした大学HPとSNSを用いた広報活動を強化し (3) 佐賀県社会福祉協議会や佐賀県高等学校教育研究会福祉部会との共催事業を進めるなどの地域との連携強化している。(4) 多様な福祉分野の第一線で活躍している5千名を超える卒業生の人的資産を生かした就職支援を実施し (5) 海外からの短期・長期の留学生受入れの強化を強力に進めている。これらの対策とともに、少子高齢化および核家族化、生活スタイルや価値観の多様化により、次第に福祉に対する社会的ニーズは高まりつつある。これらの対策などにより、本学社会福祉学科は、保健・医療・福祉関連の他学科と連携し、これまでのイメージを変えるような魅力ある社会福祉が学べる学部学科の再構成を検討し、定員充足を目指している。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本専攻では、人々の多様な健康課題を支援できる高度な専門と総合的な知識や技術を身に付けることで、自ら課題を見出し、それを科学的方法にて解決できるリーダー的人材の養成を目的としている。したがって、本専攻が目指す人材育成の具体的な人物像は、大学・専門職大学の教員および保健行政機関においてリーダー的役割を担う保健医療分野の専門職、医療・福祉機関において地域包括ケアなどをけん引する高度な保健医療分野の専門職である。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本専攻が養成する人物像に対する社会的需要は以下のとおりである。

1) 大学・専門職大学の教員

人々の健康課題は多様化している。そのため多様な保健医療専門分野における教育研究活動は極めて重要であり、これに携わる人材の育成も適切にされなければならない。しかしながら、依然として保健医療分野の大学教員は不足しており、とくに臨床研究の実績がある理学療法士・作業療法士・看護師の教員は不足している。大学院設置基準では、教授の資格として博士の学位を有することが定められているが、これに該当する人材養成（教育課程）が十分ではないことがその一因であろう。全国的に見ても、博士後期課程において、リハビリテーション学研究者を育成する大学院は2校で非常に少ない（資料6）。看護学系の博士課程は全国で112校あり、九州内では9校あるが近隣の佐賀県、長崎県にはない（資料2）。看護系大学に勤務している教員の中には、やむを得ず他の学問領域での資格取得や距離的に遠くの大学に通学するなど身体的負担をかけながらも、勉学に励んでいる大学院生がいる。教員として勤務する場合は、博士の学位は必要不可欠である。それだけに本学で博士後期課程設置すれば、質の高い看護教員、看護研究者の確保ができる。

また、本学の近隣県の保健医療系の博士後期課程は、長崎大学大学院医歯薬総合研究科（長崎県）、国際医療福祉大学大学院医療福祉学福岡キャンパス（福岡県）の2つのみである。北部九州において、博士の学位を持つ理学療法士・作業療法士・看護職（看護師・保健師・助産師）で、専門分野において高度の知識と技術を持った大学教員は非常に不足してい

る。また、臨床研究の実績がある理学療法士・作業療法士・看護職（看護師・保健師・助産師）においては、大学教員を採用する際には相応の研究業績が求められるものの、研究業績が不足する理学療法士・作業療法士・看護職（看護師・保健師・助産師）が多い。つまり理学療法士・作業療法士・看護師の教育課程において、大学や専門職大学の教員としての資質を有する理学療法士・作業療法士・看護職（看護師・保健師・助産師）は慢性的に不足している。これらの対策として、仕事をしながら理学療法士・作業療法士・看護職（看護師・保健師・助産師）のキャリアを積み、大学院博士課程に在籍し、研究を遂行するための環境整備は非常に重要である。アンケート調査結果から、大学進学条件として、職場から近いことが博士後期課程進学のハードルを下げる可能性があると考えられる。これらのことから、佐賀県においても博士後期課程を設置し、質の高い理学療法士・作業療法士・看護職（看護師・保健師・助産師）の養成、並びに実践に強い大学教員の育成することは、喫緊の課題である。

2) 保健行政機関における高度な保健医療専門職

保健行政の職員は、地域住民の健康増進に寄与する重要な役割を担っている。健康教育や介護予防事業などを行うことで、健康寿命の延伸や健康格差の縮小に向けて貢献するのも行政における理学療法士・作業療法士・看護職（看護師・保健師・助産師）の重要な役目である。近年、高齢化社会が医療費の増加を招いており、これが我が国の財政を圧迫していると言われている。佐賀県の医療費は、1999年度は2,571億円であったが、2018年度には3,336億円に達した（資料7）。一人当たり医療費に置き換えると、1999年度の29.1万円か

ら 2019 年度は 40.7 万円と増大している。特に、国民健康保険、後期高齢者医療費の増加が顕著で、これらを削減することが課題である。例えば、中年者を対象とした健康増進事業、高齢者を対象とした介護予防教事業、認知症カフェ等の実施率と参加率を上げるという健康政策を実行し、生活習慣病と認知症の発症予防および重症化予防を促進する必要がある。そこで、住民が抱える健康問題の解決に向け、都道府県や市町村の健康政策を企画・立案できるリーダー的人材が求められている。また地域社会において、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）をはじめとする老年症候群の対策においても運動指導ができるリハビリテーション専門家が求められている。すなわち、地域の事情を理解した上で有効な施策を発案できる研究者、現場研究をプロモートしながら健康づくりにおける栄養・認知・心理・運動の相互作用についてのエビデンスを発見し、それらの知見から健康づくりプログラムを提案、指導、評価を実施できる人材の育成が重要な課題となっている。

3) 医療・福祉機関において地域包括ケアなどをけん引する高度な保健医療専門職

医療施設調査によると、佐賀県における医療機関数、病床数など医療資源は全国平均より上であり、人口 10 万人当たりの医療機関数は（R1 年）は病院 12.4 施設（全国 6.6 施設）有床診療数 84.8 施設（全国 81.3 施設）である。今後の県の医療計画の課題は①病床の機能分化・連携②地域包括ケアシステムの構築③医療従事者の確保・養成とされており、特に③医療従事者の確保・養成があげられており、理学療法士・作業療法士・訪問看護師など需要に応じた人材確保等が課題となっている。県民に対する安全・安心な医療の提供とともに、県民の地域に根差した生活を保障するために、病院や診療所、地域の介護老人施設等のリハ

ビリテーションが提供される場における課題を理解し、リハビリテーション実践の改善・改革のマネジメント、実践できるリハビリテーション専門職が必要である。

看護職の中で保健師は、佐賀県内の住民に対する保健指導に従事する人材である。令和4年に開設した看護学専攻修士課程では、保健師業務に従事する院生が2名在籍している。住民の健康指導に関する研究に着手しており、地域包括ケアなどで指導できる立場になっていくことが推測される。本学の看護学部では、保健師を育成しており、卒業生が保健行政機関に就職している。今後学士課程・修士課程・博士課程へと一貫した看護継続教育の実現が可能となる。看護専門職としてのキャリアパスが設定され、質の高い看護職の人材が確保できる。

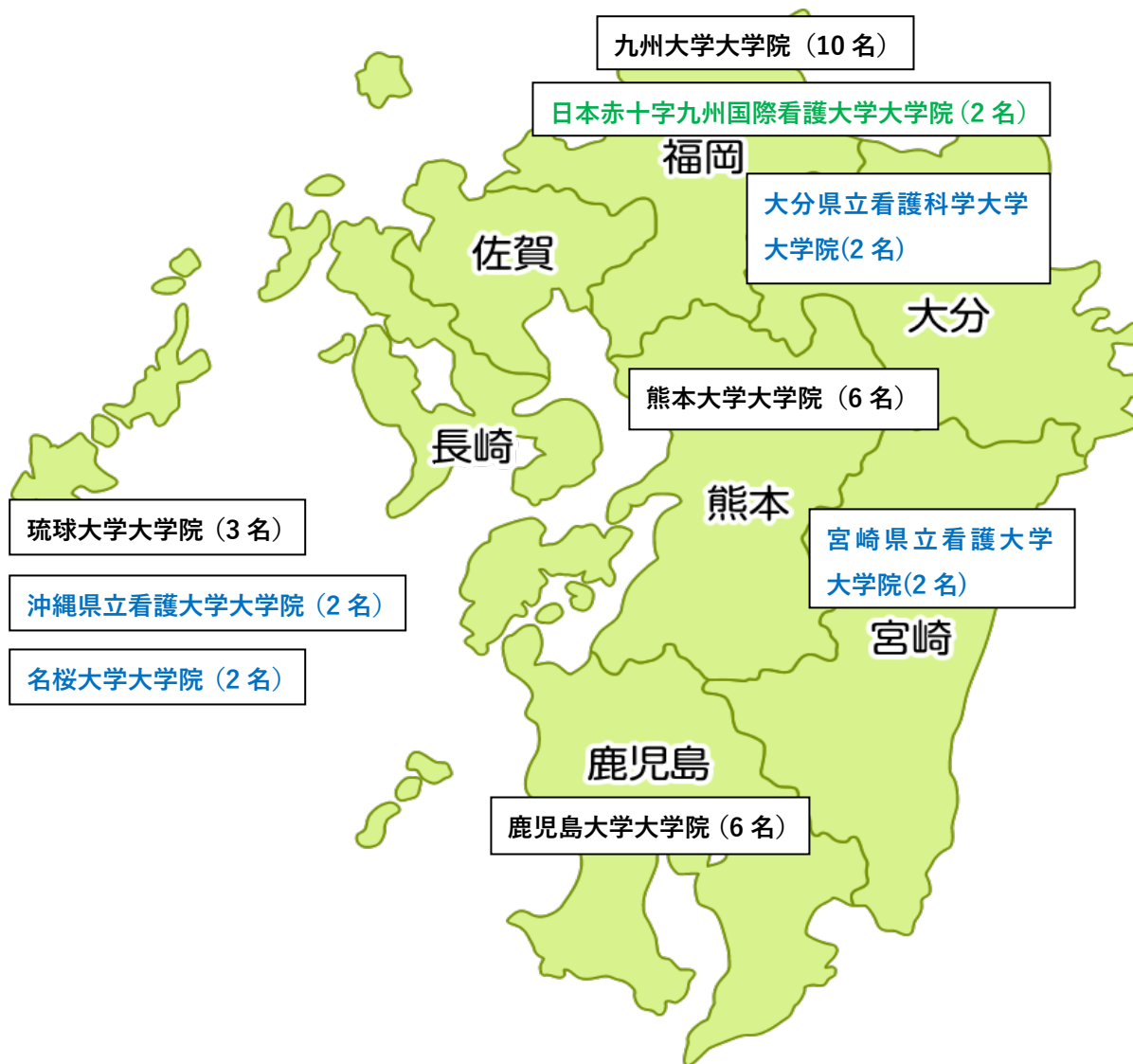
また佐賀県の医療計画では、二次医療圏（救急医療を含む一般的な入院治療が完結するよう設定した区域）を基本とし、施策体系の基本構想の地域包括ケアシステムの構築、医療・介護等連携・ネットワークの構築が計画され実行されつつある。この佐賀県がめざす基本構想の地域包括ケアシステムの構築、医療・介護等連携・ネットワークの構築こそ、本専攻が目指す保健医療専門職の専門かつ総合な教育と研究・多職種連携の教育が最も成果を示すことができる内容である。つまり、本学は多様な保健・医療・福祉・教育の専門領域を持つ大学であり、保健医療学専攻に関連する生活支援研究科として、看護学、栄養学専攻、臨床心理学専攻、リハビリテーション学専攻、子ども学専攻を設置しており、多職種連携の基本理念である多領域の専門性を学び、連携の方法を実践的に学修できる環境にあり、これらは大学としての大きな強みである。さらに本学は「地域宣言」をした地域志向の大学であ

り、県や市町などの行政、医療関係機関と密接な連携を築きやすい。また、本学部教員は地域において実践を積み上げた熟練の教員が多く、近隣の関係機関との連携を築くために有利な環境を有する。これらの学習環境下で現在の社会課題を改善し、求められる多職種連携の構築・実践ができる高度な保健医療実践者を養成することが可能である。

これまで述べてきたような我が国と県の情勢を鑑み、本学が地域大学として保健・医・福祉・教育など多様な視点と方法をもつ専門職を養成してきた経緯と経験をふまえ、生活を支援する活動の中核を担うべき保健医療専門職の大学院における教育・研究活動の必要性がますます高まってきたといえる。このような社会の要請に応えるために、本保健医療学専攻を設置することは急務である。

資料

- 資料 1： 九州圏内の看護系大学院博士課程設置状況
- 資料 2： 九州圏内の看護系大学の定員等の調査結果
- 資料 3： 博士学位取得に関するアンケート調査（調査用紙：リハビリテーション分野）
- 資料 4： 博士号取得に関するアンケート調査結果（リハビリテーション分野）
- 資料 5： 学位取得に関するアンケート調査結果（看護分野）
- 資料 6： 近隣県のリハビリテーション学系大学院の設置状況
- 資料 7： 佐賀県の総医療費、一人当たり医療費の推移



九州県内の看護系大学院博士課程設置状況

国立

- 九州大学大学院 (10名)
- 熊本大学大学院 (6名)
- 鹿児島大学大学院 (6名)
- 琉球大学大学院 (3名)

公立

- 大分県立看護科学大学大学院(2名)
- 宮崎県立看護大学大学院(2名)
- 沖縄県立看護大学大学院 (2名)
- 名桜大学大学院 (2名)

私立

- 日本赤十字九州国際看護大学大学院 (2名)

合計 9 校(35名)

九州圏内の看護系大学院の定員等の調査結果

(日本看護系大学協議会_2022年度会員校大学院一覧より抜粋)

	県名	設立	大学名	学部		修士課程 入学定員	博士課程 入学定員
1	佐賀	私立	西九州大学大学院	生活支援科学研究科	看護学専攻	5	新2
2	佐賀	国立	佐賀大学大学院	医学系研究科	看護学専攻	16	-
3	福岡	国立	九州大学大学院	医学系学府	保健学専攻	20	10
4	長崎		長崎大学大学院	医歯薬学総合研究科	保健学専攻	20	-
5	熊本		熊本大学大学院	保健学教育部	保健学専攻	16	6
6	大分		大分大学大学院	医学系研究科	看護学専攻	10	-
7	宮崎		宮崎大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	10	-
8	鹿児島		鹿児島大学大学院	保健学研究科	保健学専攻	12	6
9	沖縄		琉球大学大学院	保健学研究科	保健学専攻	10	3
10	福岡		福岡県立大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	12	-
11	長崎		長崎県立大学大学院	地域創成研究科	人間健康科学専攻	8	-
12	大分	公立	大分県立看護科学大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	25	2
				健康科学専攻	2	2	
13	宮崎		宮崎県立看護大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	12	2
14	沖縄		沖縄県立看護大学大学院	保健看護学研究科	保健看護学専攻	6	2
15	沖縄		名桜大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	6	2
16	福岡	私立	久留米大学大学院	医学研究科	医科学専攻	25	10
					看護学専攻	15	-
					社会医学系専攻		8
17	福岡	私立	産業医科大学大学院	医学研究科	看護学専攻	5	-
18	福岡	私立	純真学園大学大学院	保健医療学研究科	看護学専攻	6	-
19	福岡	私立	聖マリア学院大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	12	-
20	福岡	私立	帝京大学大学院	保健学研究科	看護学専攻	5	-
21	福岡	私立	日本赤十字九州国際看護大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	10	-
					共同看護学専攻		2
22	福岡	私立	福岡大学大学院	医学研究科	看護学専攻	6	-
23	福岡	私立	福岡看護大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	5	-
24	熊本	私立	九州看護福祉大学大学院	看護福祉学研究科	看護学専攻	10	-
25	熊本	私立	熊本保健科学大学大学院	保健科学研究科	保健科学専攻	10	-

資料 3

博士号取得に関するアンケート調査

調査用紙

各 位

西九州大学
学長 久木野 憲司

「西九州大学大学院」に「保健医療学（仮称）専攻博士後期課程」を設置することに関するアンケート調査について（ご協力のお願ひ）

本学では、「複雑化・高度化する現代のリハビリテーション学的課題に現場にて取り組み、これを解決する課題解決能力およびその成果を国際誌に発表する情報発信能力を持った人材」を養成するため、大学院に保健医療学系の博士課程の設置を構想しております。

そこで、地域における博士号取得の需要について、調査したいと考えています。この調査で知り得た情報は、他の目的に使用することは一切ありません。また、無記名式で個人の特定はできません。本趣旨をご理解いただき、ご協力下さいますよう、よろしくお願ひ致します。

【大学院の概要】（現在計画中の予定であり、変更することもあります。）

- (1) 開学時期：令和6年4月
- (2) 研究科名称（仮称）：生活支援科学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程
- (3) 取得学位：博士（理学療法学）または、博士（作業療法学）または、博士（学術）
- (4) 修業年限：3年
- (5) 定員：2名（収容定員6名：男女共学）
- (6) 入学料・授業料：入学料200,000円、授業料610,000円
- (7) 設置場所：佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9（西九州大学神埼キャンパス内）
- (8) 社会人入学生への配慮：平日夜間と土日の受講のみでほとんどの単位が取得可能

＜学生用＞

博士号取得に関するアンケート

西九州大学大学院では、保健医療学系（リハビリテーション分野）大学院博士後期課程設置を構想しております。そこで、皆さんの博士号取得の需要について、調査したいと考えています。この調査で知り得た情報は、他の目的に使用することは一切ありません。趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。

* 博士号とは、大学院の修士2年と博士課程3年を修了し、論文審査に合格した際に得られる学位です。

問1 あなたの所属についてお尋ねします

- ① 大学学部生
- ② その他（ ）

問2 あなたの学部について、主となる学問領域を教えてください。

- ① 大学リハビリテーション学科
- ② その他（ ）

問3 どんな領域の大学院に興味がありますか

- ① リハビリテーション学系（理学療法学、作業療法学、リハビリテーション学など）
- ② 他の医療・介護・福祉・保健（看護学含む）系
- ③ 医学系（医学・歯学など）
- ④ 教育・心理系
- ⑤ その他（ ）
- ⑥ 興味がない

問4 博士号の学位取得に興味はありますか

- ① 興味がある
- ② 少し興味がある
- ③ あまり興味がない
- ④ 全く興味がない

<修士修了者用>

博士号取得に関するアンケート（修士修了編）

西九州大学大学院では、保健医療学系（リハビリテーション学分野）大学院博士後期課程設置を構想しております。そこで、近隣地域の方々の博士号取得の需要について、調査したいと考えています。この調査で知りえた情報は、他の目的に使用することは一切ありません。趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。

問1 あなたの所属についてお尋ねします

- ① 保健・医療施設・福祉施設
- ② 高等教育機関（大学・大学院等）
- ③ 教育機関（大学・大学院等以外）
- ④ 研究機関
- ⑤ 行政
- ⑥ その他（ ）

問2 あなたの専門について、主となる学問領域を教えてください。

- ① リハビリテーション学系（理学療法学、作業療法学、リハビリテーション学など）
- ② 他の医療・介護・福祉・保健（看護学含む）系
- ③ 医学系（医学・歯学など）
- ④ 教育・心理系
- ⑤ その他（ ）

問3 どんな領域の大学院に興味がありますか

- ① リハビリテーション学系（理学療法学、作業療法学、リハビリテーション学など）
- ② 他の医療・介護・福祉・保健（看護学含む）系
- ③ 医学系（医学・歯学など）
- ④ 教育・心理系
- ⑤ その他（ ）

問4 大学院博士課程を修了していますか

- ① 修了している
- ② 現在、大学院博士課程に在籍している
- ③ 大学院博士課程に在籍していないが、職場において2年以上の研究・試験業務の経験がある
- ④ いずれにも該当しない

問5 博士号の学位取得を希望していますか

- ① 希望している
- ② これから博士号取得について考えてみたい
- ③ 全く考えていない
- ④ 博士課程在学中または修了した

問6 問5で①または②に○をつけた方へお尋ねします。博士号取得にあたり、何が重要となりますか（複数回答可）

- ① 勉強したい領域
- ② 就学における経費
- ③ 取得後の就職等
- ④ 通学距離
- ⑤ 仕事との両立
- ⑥ 家庭との両立
- ⑦ その他（ ）

問7 あなたの関係している方で、博士号取得を希望されている方はいらっしゃいますか

- ① 希望している人がいる
- ② 希望している人がいるかもしれない
- ③ 希望する人はいない

問8 西九州大学にリハビリテーション分野の博士課程が設置された場合、進学先として検討しますか

- ① 博士課程在学中または修了した
- ② 進学先として検討したい
- ③ 分からない
- ④ 博士号取得を考えていない
- ⑤ 進学先として考えていない

ご協力ありがとうございました

<問い合わせ先>

西九州大学大学院 リハビリテーション学専攻
メールアドレス komatsuy@nisikyu-u.ac.jp

＜大学院生用＞

博士号取得に関するアンケート（修士課程学生偏）

西九州大学大学院では、保健医療学系（リハビリテーション学分野）大学院博士後期課程設置を構想しております。そこで、皆さんの博士号取得の需要について、調査したいと考えています。この調査で知り得た情報は、他の目的に使用することは一切ありません。趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。

*博士号とは、大学院の修士2年と博士課程3年を修了し、論文審査に合格した際に得られる学位です。

問1 あなたの所属についてお尋ねします

- ① 大学大学院リハビリテーション学専攻
- ② その他（ ）

問2 あなたの学部について、主となる学問領域を教えてください。

- ① 大学大学院リハビリテーション学専攻
- ② その他（ ）

問3 どんな領域の大学院に興味がありますか

- ① リハビリテーション学系（理学療法学、作業療法学、リハビリテーション学など）
- ② 他の医療・介護・福祉・保健（看護学含む）系
- ③ 医学系（医学・歯学など）
- ④ 教育・心理系
- ⑤ その他（ ）
- ⑥ 興味がない

問4 博士号の学位取得に興味はありますか

- ① 興味がある
- ② 少し興味がある
- ③ あまり興味がない
- ④ 全く興味がない

問5 将来、博士号を取得したいですか

- ① 取得を考えている
- ② これから博士号取得について考えてみたい
- ③ 全く考えていない

問6 問5で①または②に○をつけた方へお尋ねします。博士号取得にあたり、何が重要となりますか（複数回答可）

- ① 勉強したい領域
- ② 就学における経費
- ③ 取得後の就職等
- ④ 通学距離
- ⑤ 仕事との両立
- ⑥ 家庭との両立
- ⑦ その他（ ）

問7 あなたのまわりで、博士号取得を希望されている方はいらっしゃいますか

- ① 希望している人がいる
- ② 希望している人がいるかもしれない
- ③ 希望する人はいない

問8 西九州大学大学院博士課程が設置された場合、進学先として検討しますか

- ① 進学先として検討したい
- ② 情報収集してから考えたい
- ③ 博士号取得を考えていない
- ④ 進学先として考えていない

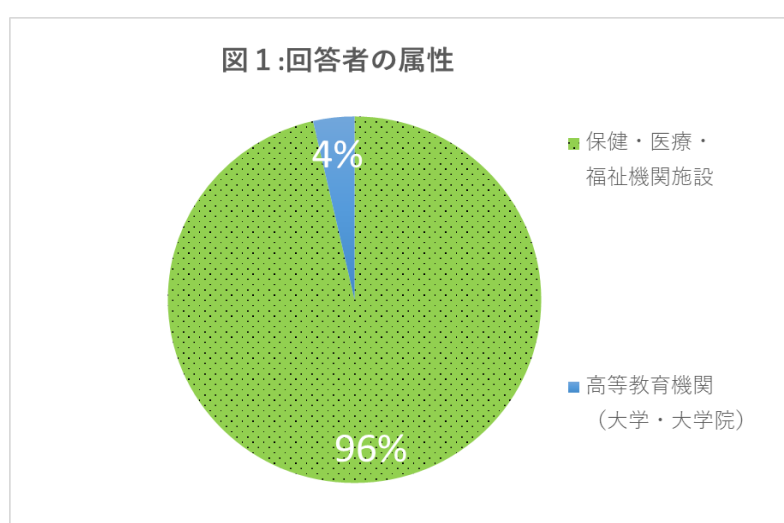
ご協力ありがとうございました

<問い合わせ先>
西九州大学大学院 リハビリテーション学専攻
メールアドレス komatsuy@nisikyu-u.ac.jp

博士号取得に関するアンケート調査結果（社会人編）

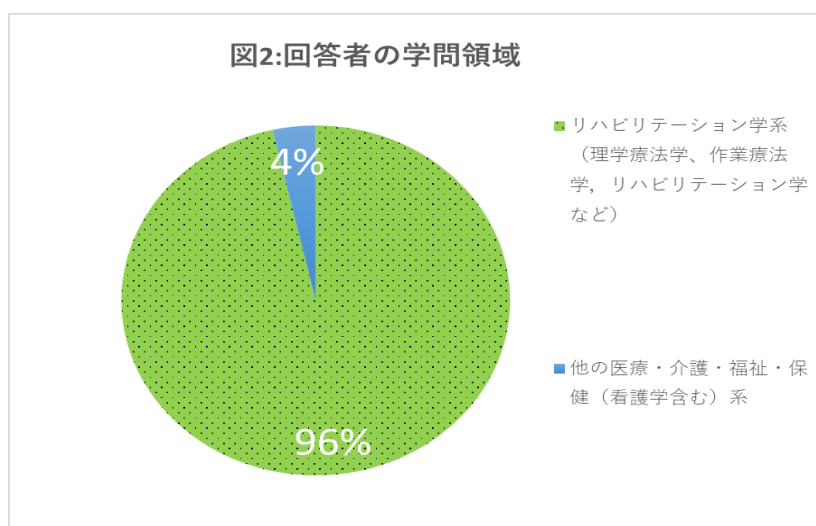
問 1 あなたの所属についてお尋ねします

保健・医療・福祉機関施設	高等教育機関 (大学・大学院)	高等教育機関 (大学・大学院以外)	計
27 (96.4%)	1 (3.6%)	0 (0%)	28



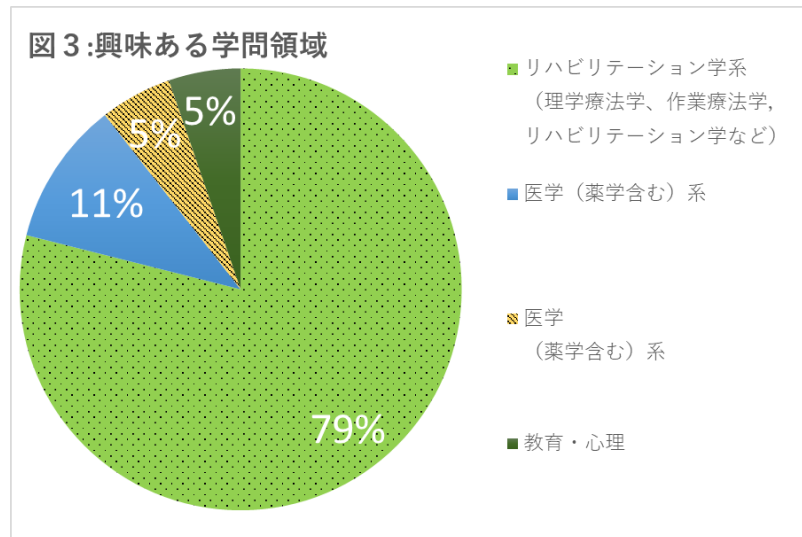
問 2 あなたの専門について、主となる学問領域を教えてください

リハビリテーション学系 (理学療法学、作業療法学、 リハビリテーション学など)	他の医療・介護・福祉・保健 (看護学含む)系	計
27 (96.4%)	1 (3.6%)	28



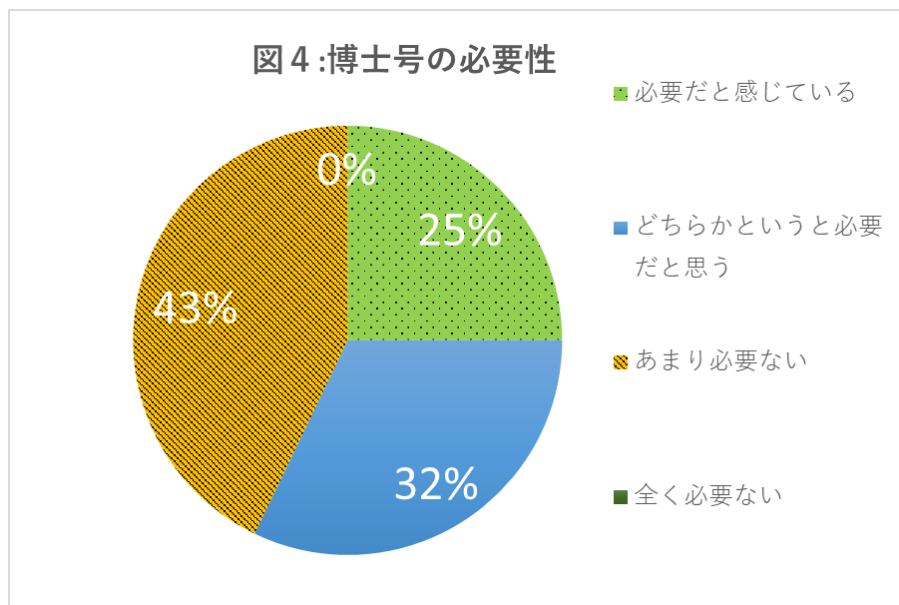
問3 どんな領域の大学院に興味がありますか

リハビリテーション学系 (理学療法学、作業療法学、リハビリテーション学など)	他の医療・介護・ 福祉・保健(看護 学含む)系	医学 (薬学含む)系	教育・心理	興味がない	計
15 (53.6%)	2 (7.1%)	1 (3.6%)	1 (3.6%)	9 (32.1%)	28



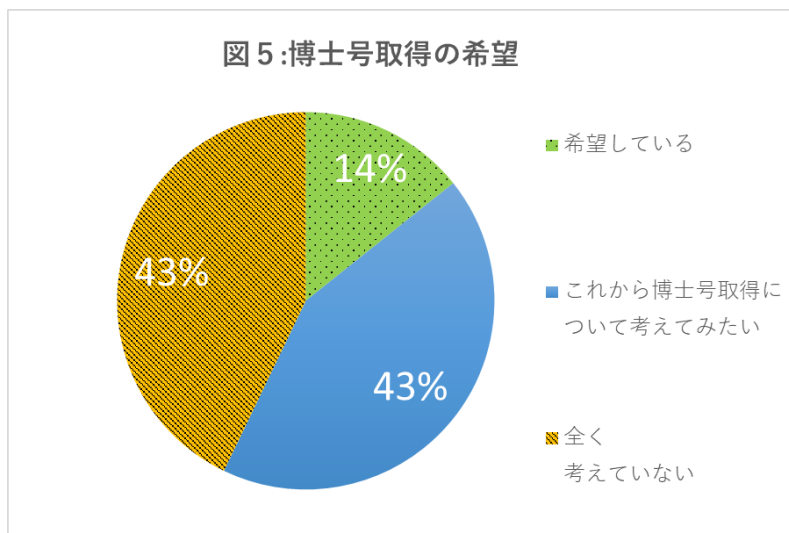
問4 仕事上、博士の学位取得の必要性を感じていますか

必要だと感じている	どちらかという必要だと 思う	あまり必要ない	全く必要ない	計
7 (25%)	9 (32.1%)	12 (42.9%)	0 (0%)	28



問5 博士号の学位取得を希望していますか

希望している	これから博士号取得について考えてみたい	全く考えていない	計
4 (14.3%)	12 (42.9%)	12 (42.9%)	28



問6 問5で①または②に○をつけた方にお尋ねします。

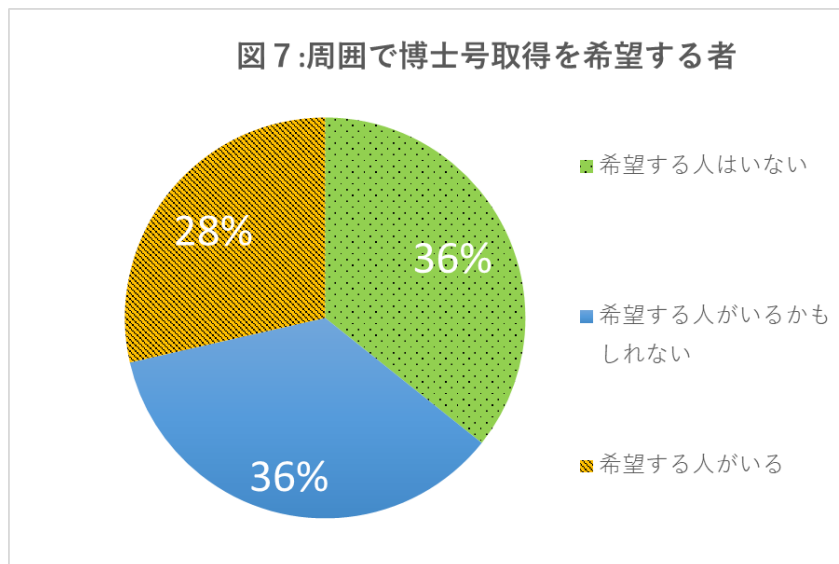
博士号取得にあたり、何が重要となりますか（複数回答可）

勉強したい領域	就学における経費	取得後の就職等	通学距離	仕事との両立	家庭との両立	計
14 (26.4%)	9 (17%)	4 (7.5%)	9 (17%)	13 (24.5%)	4 (7.5%)	53



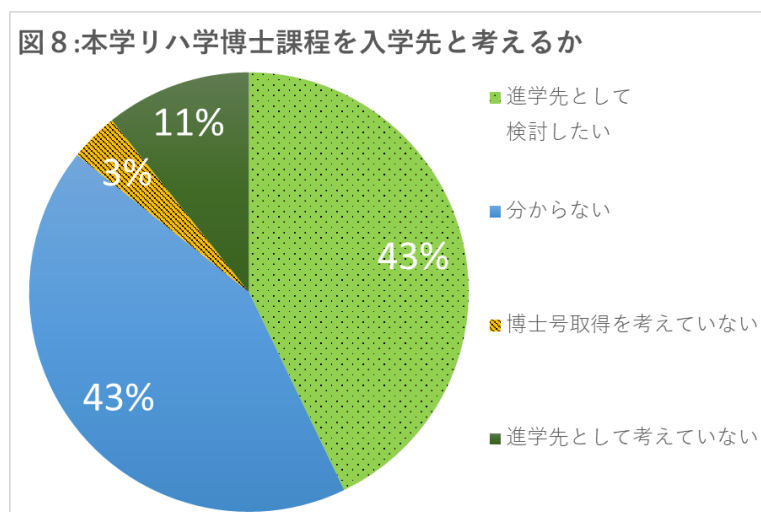
問7 あなたの関係している方で、博士号取得を希望されている人はいますか

希望する人はいない	希望する人がいる かもしれない	希望する人がいる	計
10 (35.7%)	10 (35.7%)	8 (28.6%)	28



問8 西九州大学大学院博士課程が設置された場合、進路先として検討しますか

既に他大学院博士 課程に進学	進学先として 検討したい	分からない	博士号取得を 考えていない	進学先として 考えていない	計
0 (0%)	12 (42.9%)	12 (42.9%)	1 (3.6%)	3 (10.7%)	28



博士号取得に関するアンケート調査結果（学部4年生編）

問1 あなたの所属についてお尋ねします

本学リハビリテーション学科	37名
---------------	-----

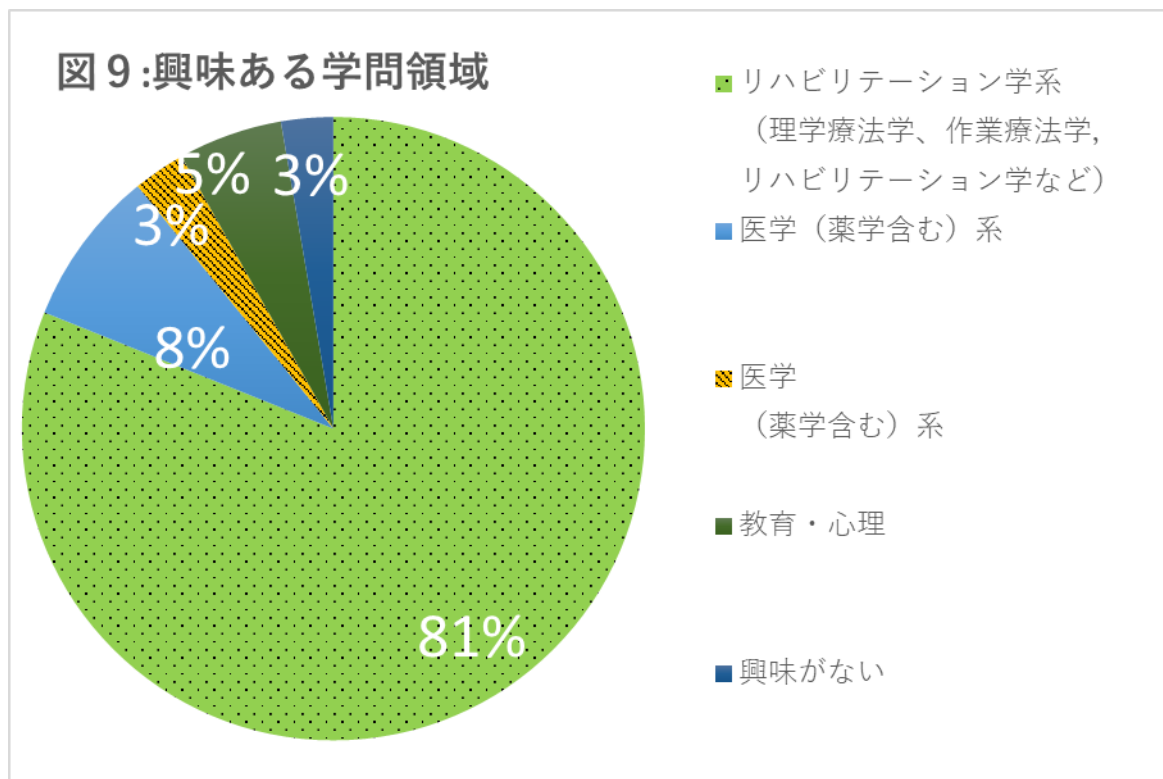
問2 あなたの学部・専攻について、主となる学問領域を教えてください。

本学リハビリテーション学科	37名
---------------	-----

問3 どんな領域の大学院に興味がありますか

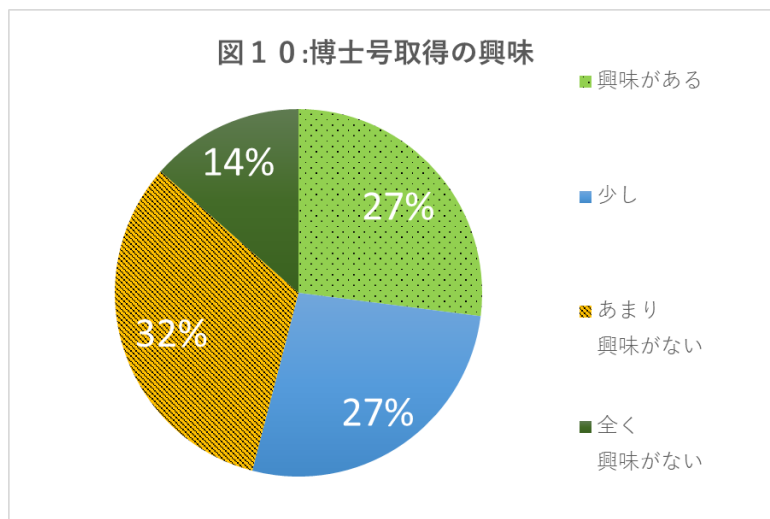
リハビリテーション学系 (理学療法学、作業療法学、 リハビリテーション学 など)	他の医療・介護・福祉・ 保健（看護学含む）系	医学 (薬学含む)系	教育・心理	興味がない	計
30 (81.1%)	3 (8.1%)	1 (2.7%)	2 (5.4%)	1 (2.7%)	37

図9:興味ある学問領域



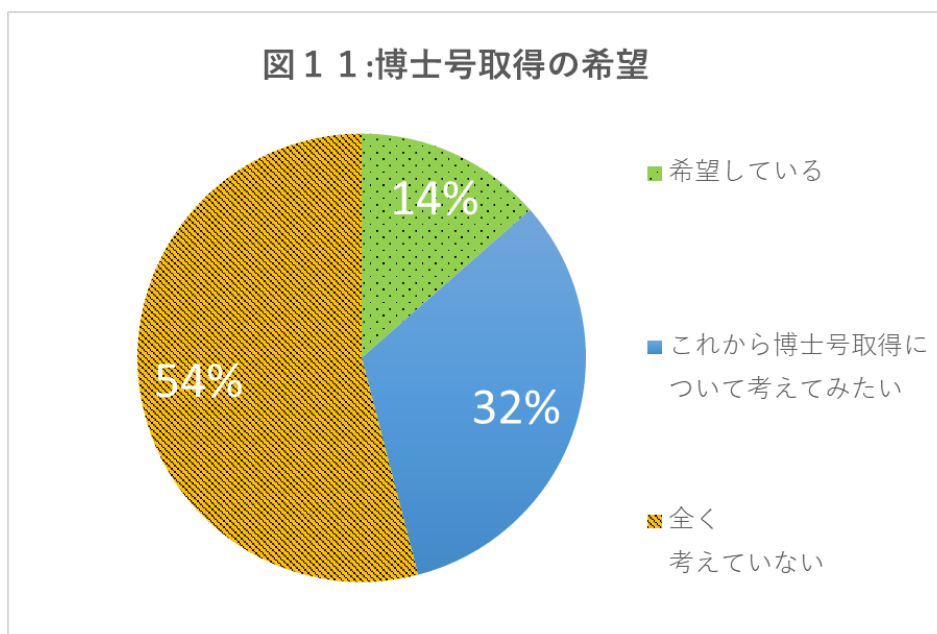
問 4 博士の学位取得に興味がありますか

興味ある	少しある	あんまり興味はない	全く興味はない	計
10 (27%)	10 (27%)	12 (32.4%)	5 (13.5%)	37



問 5 将来博士号の学位取得を希望していますか

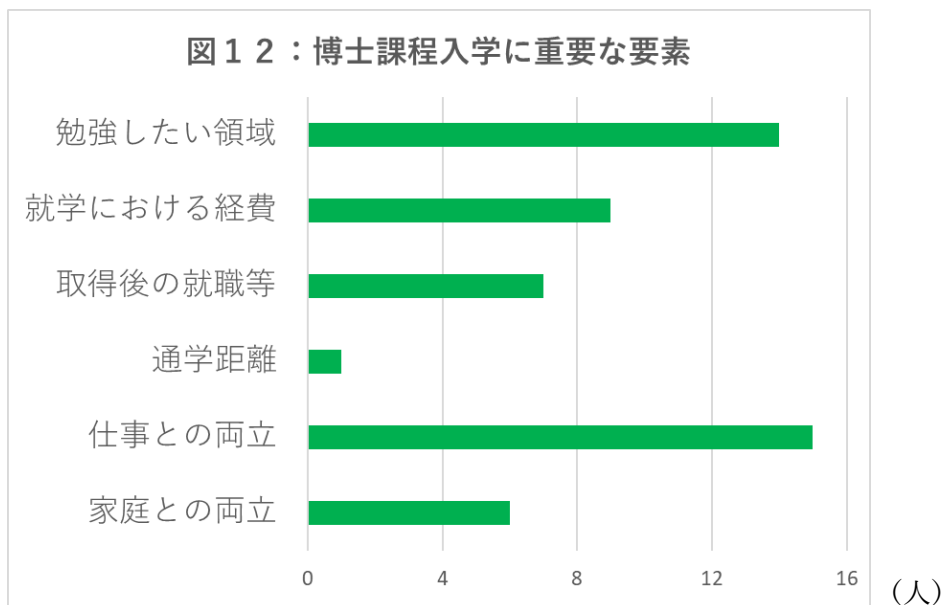
博士号取得を希望している	これから博士号取得について考えてみたい	全く考えていない	計
5 (13.5%)	12 (32.4%)	20 (54.1%)	12



問6 問5で①または②に○をつけた方にお尋ねします。

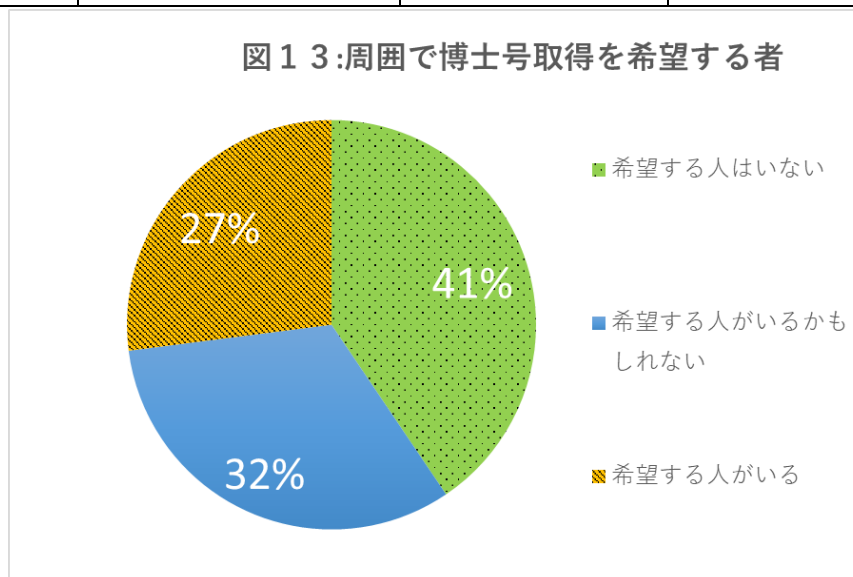
博士号取得にあたり、何が重要となりますか（複数回答可）

勉強したい領域	就学における経費	取得後の就職等	通学距離	仕事との両立	家庭との両立	計
14 (26.9%)	9 (17.3%)	7 (13.5%)	1 (1.9%)	15 (28.8%)	6 (11.5%)	52



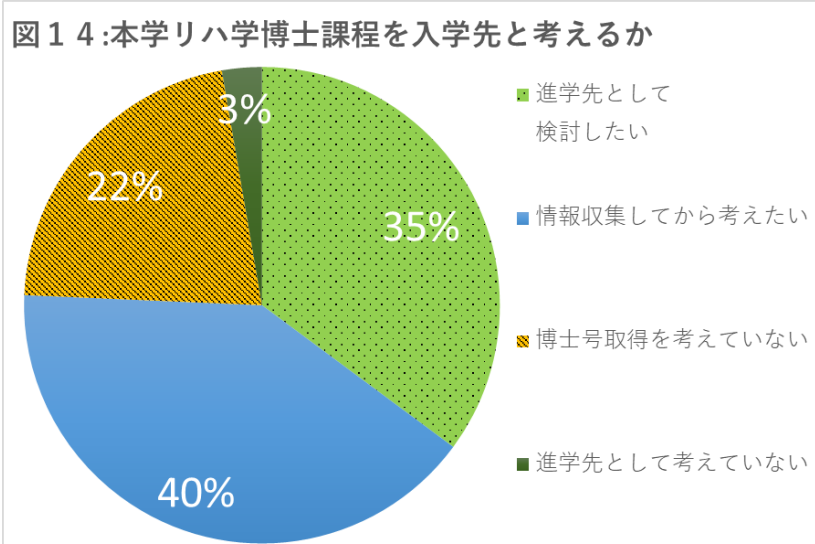
問7 あなたの関係している方で、博士号取得を希望されている人はいますか

希望する人はいない	希望する人がいる かもしれない	希望する人がいる	計
15 (40.5%)	12 (32.4%)	10 (27%)	37



問 8 西九州大学大学院博士課程が設置された場合、進路先として検討しますか

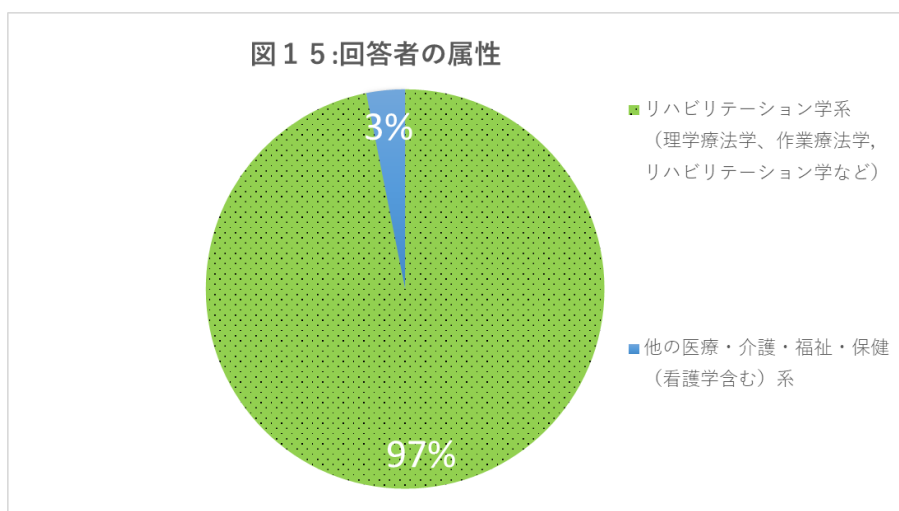
進学先として 検討したい	情報収集してか ら考えたい	博士号取得を 考えていない	進学先として 考えていない	計
13 (35.1%)	15 (40.5%)	8 (21.6%)	1 (2.7%)	37



博士号取得に関するアンケート調査結果（修士修了者編）

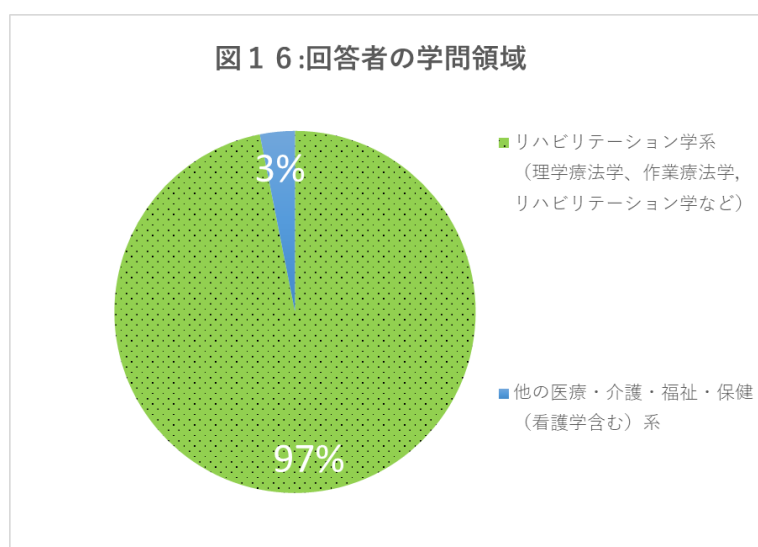
保健・医療・福祉機関施設	高等教育機関 (大学・大学院)	高等教育機関 (大学・大学院以外)	計
23 (71.9%)	7 (21.9%)	2 (6.3%)	32

問1 あなたの所属についてお尋ねします



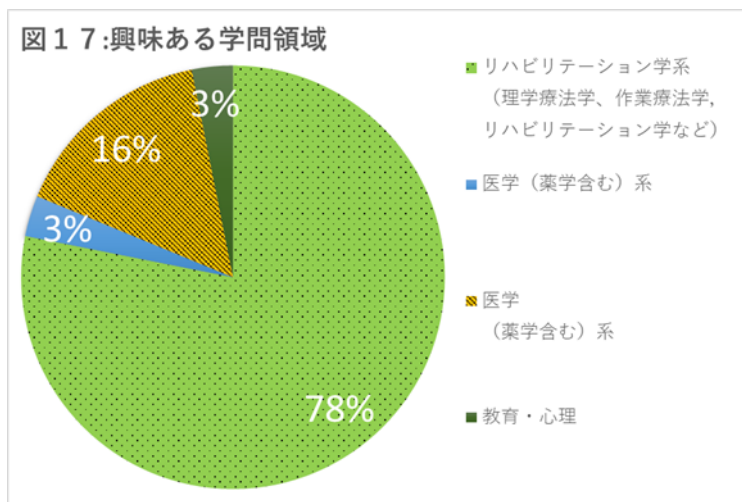
問2 あなたの専門について、主となる学問領域を教えてください

リハビリテーション学系 (理学療法学、作業療法学、 リハビリテーション学など)	他の医療・介護・福祉・保健 (看護学含む)系	計
31 (96.9%)	1 (3.1%)	32



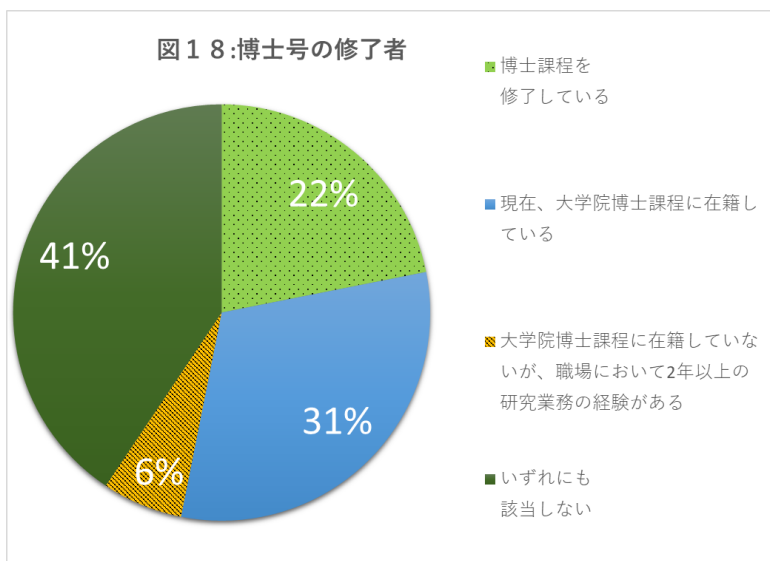
問3 どんな領域の大学院に興味がありますか

リハビリテーション学系 (理学療法学、作業療法学、リハビリテーション学など)	他の医療・介護・福祉・保健(看護学含む)系	医学 (薬学含む)系	教育・心理	興味がない	計
25 (78.1%)	1 (3.1%)	5 (15.6%)	1 (3.1%)	0 (0%)	25



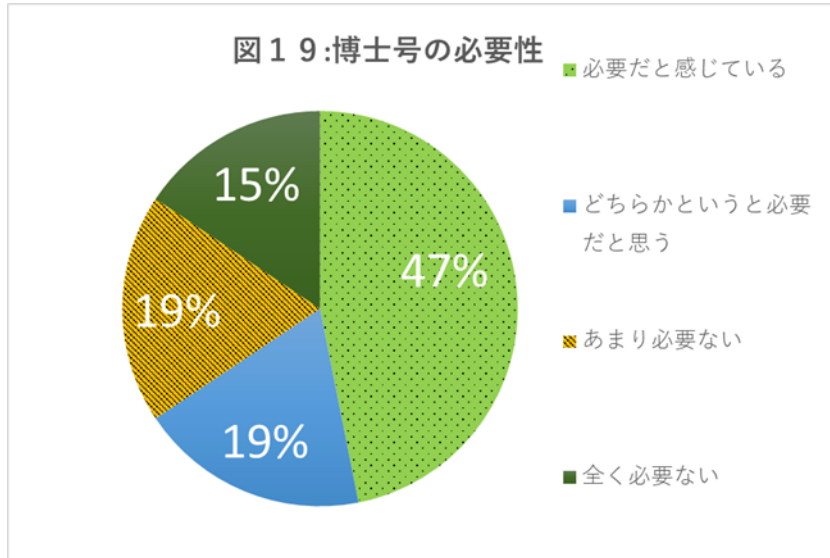
問4 大学院博士課程を修了していますか

博士課程を修了している	現在、大学院博士課程に在籍している	大学院博士課程に在籍していないが、職場において2年以上の研究業務の経験がある	いずれにも該当しない	計
7 (21.9%)	10 (31.3%)	2 (6.3%)	13 (40.6%)	32



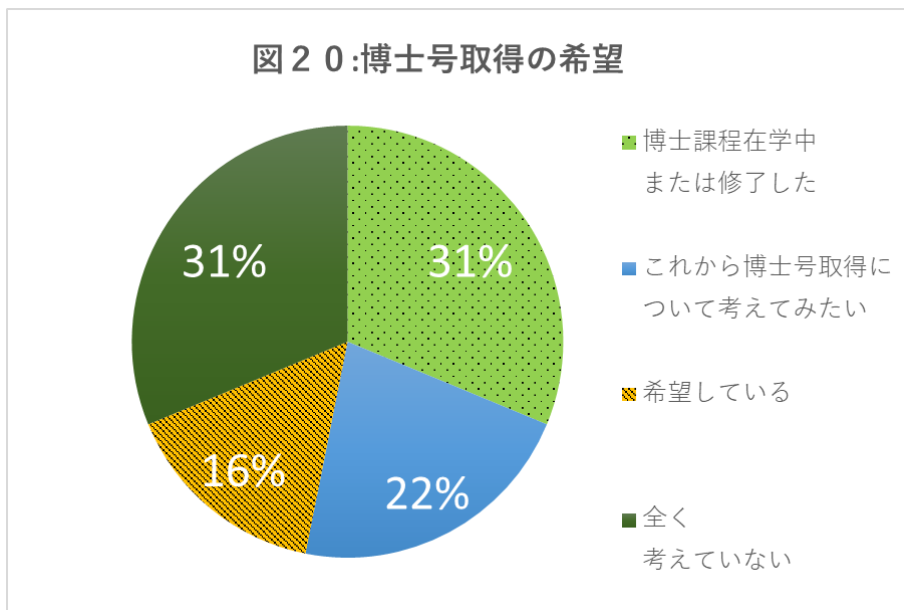
問5 仕事上、博士の学位取得の必要性を感じていますか

必要だと感じている	どちらかという必要だと思う	あまり必要ない	全く必要ない	計
15 (46.9%)	6 (18.8%)	6 (18.8%)	5 (15.6%)	32



問6 博士号の学位取得を希望していますか

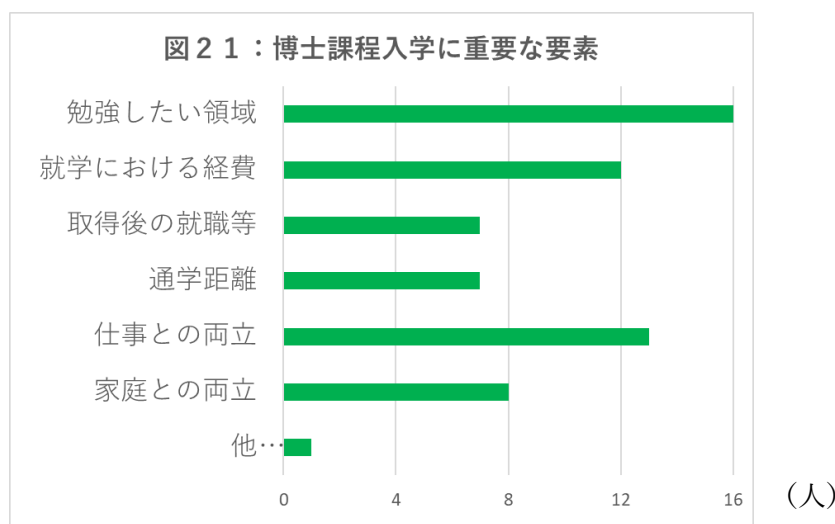
博士課程在学中 または修了した	これから博士号取得について考えてみたい	希望している	全く考えていない	計
10 (31.3%)	7 (21.9%)	5 (15.6%)	10 (31.3%)	32



問7 問6で①または②に○をつけた方にお尋ねします。
 博士号取得にあたり、何が重要となりますか（複数回答可）

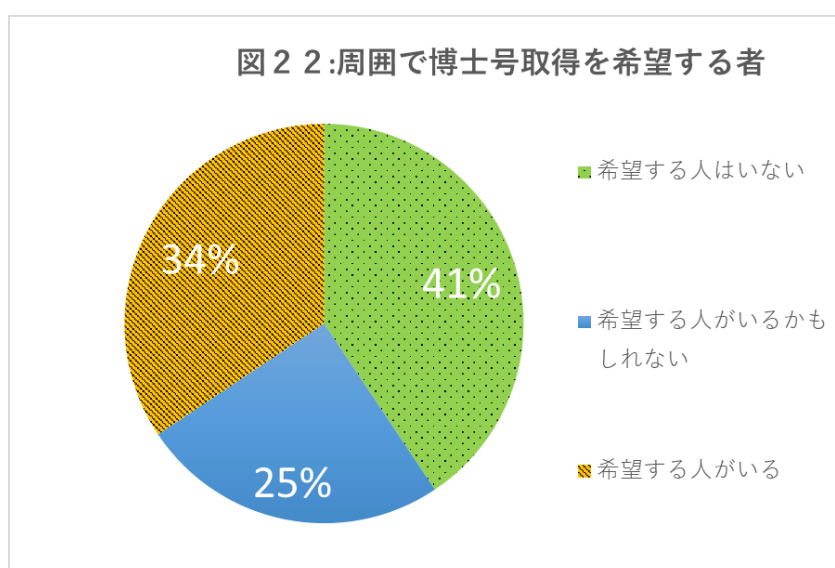
勉強したい領域	就学における経費	取得後の就職等	通学距離	仕事との両立	家庭との両立	他	計
16 (25.4%)	12 (19%)	7 (11.1%)	7 (11.1%)	13 (20.6%)	8 (12.7%)	1 (1.6%)	63

*他は「上司の理解」



問8 あなたの関係している方で、博士号取得を希望されている人はいますか

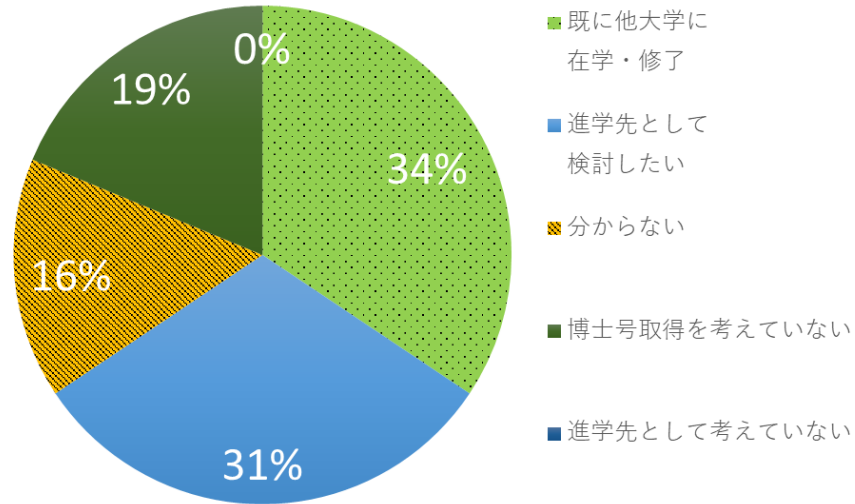
希望する人はいない	希望する人がいる かもしれない	希望する人がいる	計
13 (40.6%)	8 (25%)	11 (34.4%)	32



問9 西九州大学大学院博士課程が設置された場合、進路先として検討しますか

既に他大学で 修了または在学	進学先として 検討したい	分からない	博士号取得を 考えていない	進学先として 考えていない	計
11 (34.4%)	10 (31.3%)	5 (15.6%)	6 (18.8%)	0 (0%)	32

図2-3:本学リハ学博士課程を入学先と考えるか



博士号取得に関するアンケート調査結果（修士課程大学院生編）

問1 あなたの所属についてお尋ねします

本学大学院修士課程（リハビリテーション学専攻）	5名
-------------------------	----

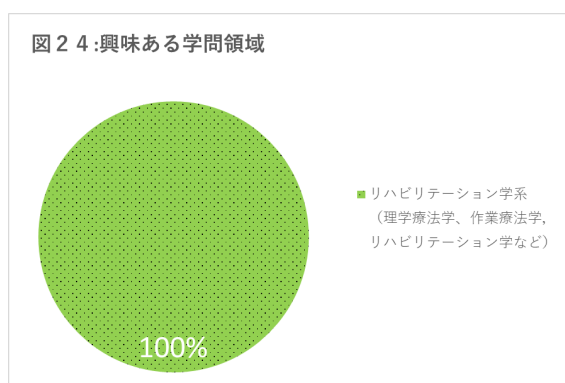
問2 あなたの学部・専攻について、主となる学問領域を教えてください。

本学大学院修士課程（リハビリテーション学専攻）	5名
-------------------------	----

問3 どんな領域の 大学

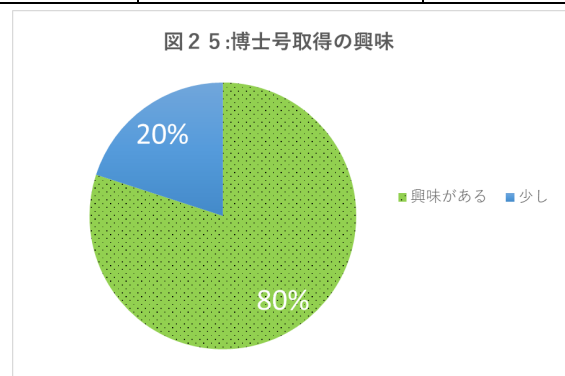
リハビリテーション学系 (理学療法学、作業療法学、リハビリテーション学など)	他の医療・介護・福祉・ 保健（看護学含む）系	医学 (薬学含む)系	教育・心理	興味がない	計
5 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5

院に興味がありますか



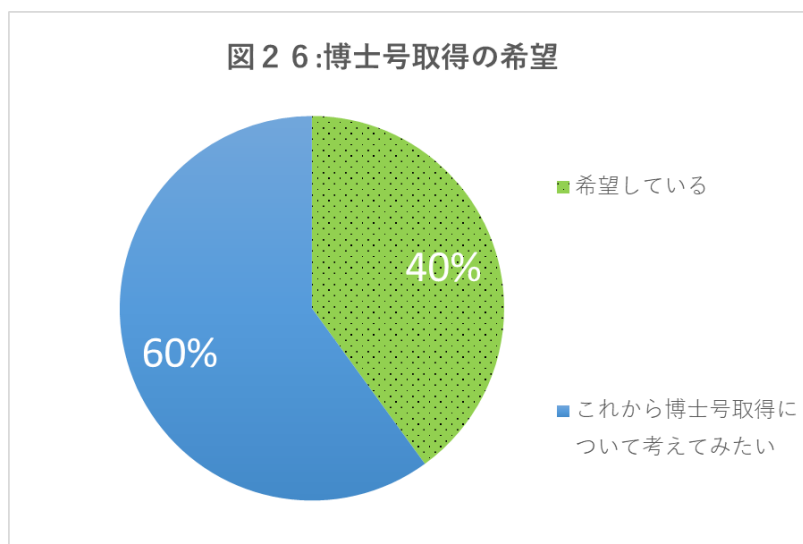
問4 博士の学位取得に興味がありますか

興味ある	少しある	あんまり興味はない	全く興味はない	合計
4 (80%)	1 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	5



問5 将来、博士号の学位取得を希望していますか

希望している	これから博士号取得について考えてみたい	全く考えていない	合計
2 (40%)	3 (60%)	0 (0%)	5



問6 問5で①または②に○をつけた方にお尋ねします。

博士号取得にあたり、何が重要となりますか（複数回答可）

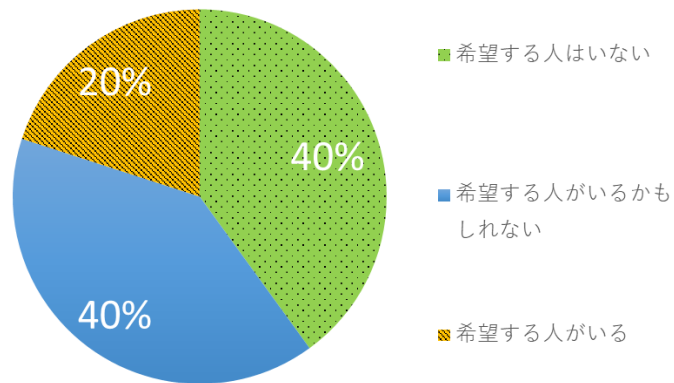
勉強したい領域	就学における経費	取得後の就職等	通学距離	仕事との両立	家庭との両立	合計
4 (28.6%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	4 (28.6%)	2 (14.3%)	14



問7 あなたの関係している方で、博士号取得を希望されている人はいますか

希望する人はいない	希望する人がいる かもしれない	希望する人がいる	合計
2 (40%)	2 (40%)	1 (20%)	5

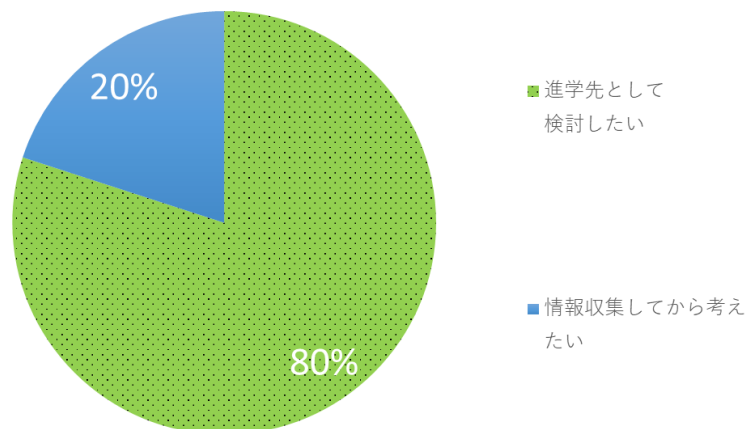
図28:周囲で博士号取得を希望する者



問8 西九州大学大学院博士課程が設置された場合、進路先として検討しますか

進学先として 検討したい	情報収集してか ら考えたい	博士号取得を 考えていない	進学先として 考えていない	合計
4 (80%)	1 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	5

図29:本学リハ学博士課程を入学先と考えるか



学位取得に関するアンケート調査結果（看護分野）

大学院の進学（修士課程、博士課程前期）についてお考えですか？
西九州大学看護学部大学院二－ズ調査（2021.1.25）より
対象：佐賀県内の主な実習病院の看護職

n=1714

項 目	回答数	割合
はい	22名	1.3%
いずれは進学したい	89名	5.2%
修了済み	22名	1.3%
いいえ	1581名	92.2%

大学院の進学希望（博士課程も含む）に「はい」と回答された方の
希望理由（複数回答可）

西九州大学看護学部大学院二－ズ調査より
対象：佐賀県内の主な実習病院の看護職

n=155

項 目	回答数	割合
現在の看護職としての能力を向上させたい	88名	56.8%
さらに勉強し博士を目指したい	5名	3.2%
教育力・研究力を高めたい	41名	26.5%
大学教員を目指したい	7名	4.5%
管理職を目指したい	7名	4.5%
その他	7名	4.5%

大学院に進学し（博士課程も含む）学びたいこと（複数回答可）
西九州大学看護学部大学院二－ズ調査より
対象：佐賀県内の主な実習病院の看護職

n=414

項目	回答数	割合
管理（組織、人事、危機）・人材育成について学びたい	70名	16.9%
地域・在宅・地域包括ケアについて学びたい	57名	13.8%
自分の興味のある看護分野についてさらに深めたい	185名	44.7%
看護教育方法について学びたい	64名	15.5%
看護研究方法について学びたい	32名	7.7%
その他	6名	1.4%

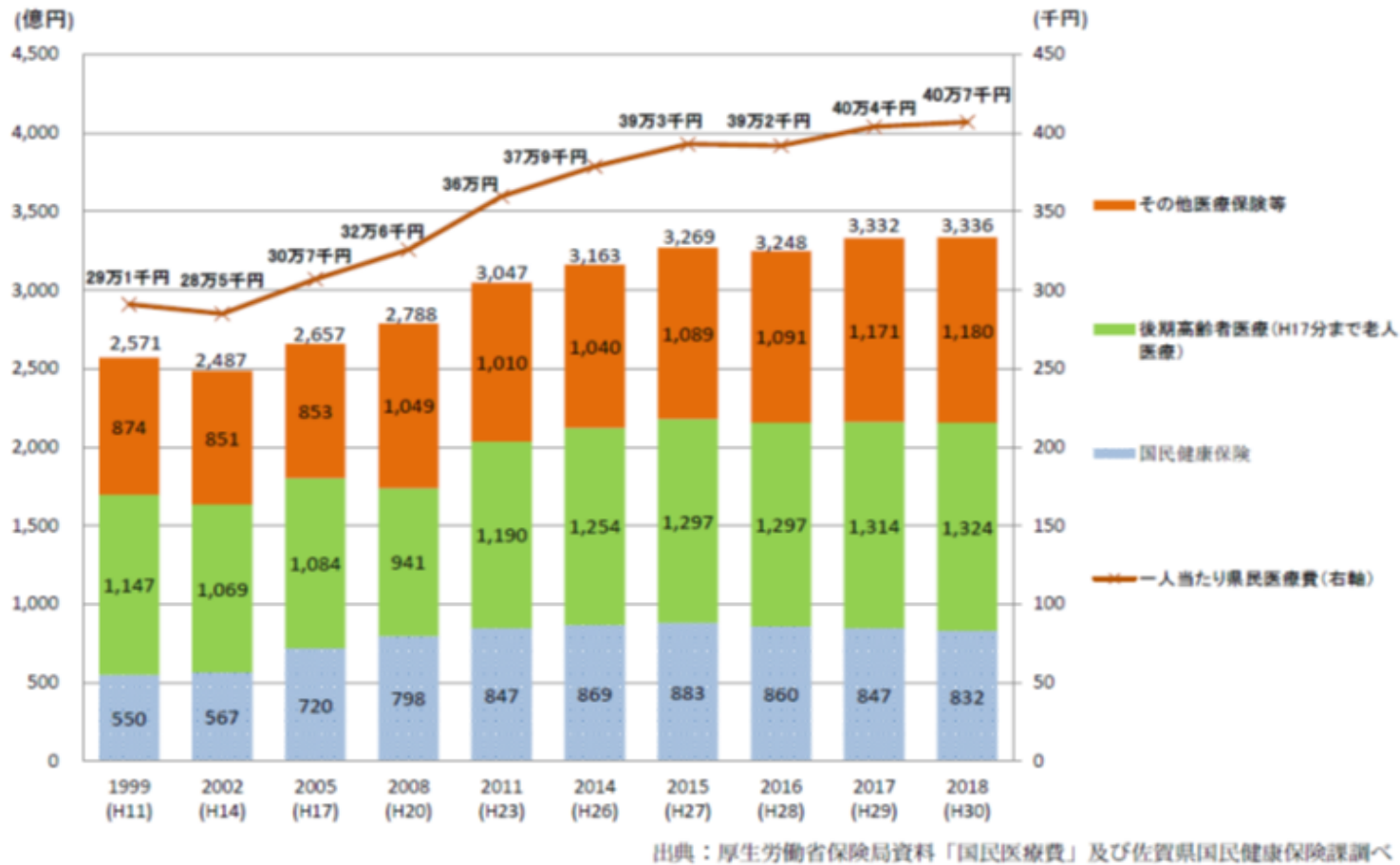
資料6

佐賀県内近隣県の理学療法士作業療法士養成課程がある大学とリハビリテーション学系大学院の定員等の調査結果

件名	設立	大学名	学部		学部 入学定員	大学院	修士課程 入学定員	博士課程 入学定員	博士課程 初年度 校納金 (円)	博士課程 2年次以降 校納金 (円)
佐賀県	私立	西九州大学	リハビリテーション学部	理学療法専攻	40	生活支援科学研究科 リハビリテーション学専攻	4	2	810,000	610,000
			リハビリテーション学科	作業療法専攻	40					
長崎県	国立	長崎大学	医学部 保健学科	理学療法専攻	18	医歯薬学総合研究科 (M)保健学専攻 (D)医療科学学専攻	10*	10*	817,800	535,800
				作業療法専攻	18					
福岡県	私立	帝京大学	福岡医療技術学部	理学療法学科	80					
				作業療法学科	40					
福岡県	私立	国際医療福祉大学	福岡保健医療学部	理学療法学科	80	医療福祉学研究科 (M)保健医療学専攻 (D)保健医療学専攻	8**	5**		
				作業療法学科	40					
福岡県	私立	福岡国際医療福祉大学	医療学部	理学療法学科	40					
				作業療法学科	40					
福岡県	私立	九州栄養福祉大学	リハビリテーション学部	理学療法学科	40					
				作業療法学科	40					
福岡県	私立	令和保健科学大学	リハビリテーション学部	理学療法学科	80					
				作業療法学科	40					
熊本県	私立	熊本保健科学大学	保健科学部 リハビリテーション学科	理学療法専攻	40	保健科学研究科 (M)保健科学専攻	5			
				作業療法専攻	40					
熊本県	私立	九州看護福祉大学	看護福祉学部	リハビリテーション学科 (理学療法のみ)	60					
学部合計入学定員					776	大学院入学定員	27	17		

* ; リハビリテーション学系のみ定員は不明で、該当専攻に実績を聴取した

** ; 福岡キャンパスにおけるリハビリテーション学系のみ定員は不明で、該当専攻に実績を聴取した



資料 7：佐賀県の総医療費、一人当たり医療費の推移

出典：国民健康保険の現状と課題（佐賀県健康福祉部国民健康保険課）2020年6月